



薄井 由枝 先生

### 略歴

久留米大学病院口腔外科の勤務を経て渡米。

1996年 6月 東ワシントン大学歯科衛生学部卒業

1999年 6月 ワシントン大学歯学部大学院口腔生物学部修士課程修了

2005年 3月 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学博士課程修了

2000年～現在 関東圏の歯科医院で非常勤歯科衛生士として勤務する傍ら、研究や教育・執筆活動に携わる。

2005年 4月～現在 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学非常勤講師

## より効果的に時短で行うSRP & SPTの実際 ～アメリカンイーグルXP 使用例の紹介～

東京医科歯科大学大学院 高齢者歯科学分野  
薄井 由枝

歯科衛生士の中心業務である歯周ディブライドメントにおいて、手用インスツルメントは欠かすことができません。歯周ディブライドメントを効率よく行うには、インスツルメントは常にシャープなエッジを維持しておくことが基本となります。「鈍なエッジ」は、歯石を捉えることができずに歯石の表面を滑ってしまうので、結果的に歯石を磨くこととなり、除石しにくい歯石を作る原因となります。またストロークのコントロールを維持するのに余分な力を必要とするので、術者の疲労の増加や患者への偶発事故のリスクが高くなるとも言われています。一方、「シャープなエッジ」は、術者に疲労の軽減をもたらすだけでなく、患者の快適感と満足度を向上させ、次回のメンテナンスへの期待感を高めることになり、メンテナンス率の向上に繋がると言われています。つまり、その日の診療で使うインスツルメントをシャープニングすることは、毎日の診療の準備業務としての基本といえます。

しかしながら、歯科衛生士にとって必要不可欠なシャープニングスキルにもかかわらず、不得手な方も多いのではないのでしょうか？ もしこの作業が不要だったら？ シャープニングしなくても切れるインスツルメントがあったら？ 夢のような話ではないのでしょうか？

私たちが愛用しているグレイシーキュレットは、約70年前、Dr.グレイシーによって開発されました。グレイシーキュレットの登場は、歯科インスツルメントのシャンクデザインの革命でした。しかし、その後、シャンクの形状やグリップの改良はみられましたが、最も重要なインスツルメントそのものの素材の開発は、長い間基本的には変わっていないといわれています。

しかし近年、“毎日シャープニングしなくても、ある一定期間安定してシャープなエッジを保持できる”インスツルメントが米国のアメリカンイーグル(AE)社によって開発されました。それが新技術XPテクノロジーによって誕生した『XPシリーズ』です。このブレードは、剥がれ落ちるような表面的なコーティングではなく、非常に耐久性のある特殊配合合金を加圧窯にて加工する工学プロセスによって製造されています。ブレードの表面は、ナノテクノロジーを使用し、100倍以上の耐摩耗性を向上しています。その結果、緻密で非常に滑らかなブレードは、鋭いエッジを生み出すことに成功しました。

このセミナーでは、XPシリーズの特長や、実際の診療室での使用方法と使用例『時短が可能になったSRP&SPTのプロセス』、長持ちさせる管理の仕方および交換の時期、さらに『適切なテストステックの使い方』について解説します。